

随想コーナー

Vol.242

中医協の思い出①

一般社団法人 全国公私病院連盟 会長 邊見 公雄

今、病院経営が大変である。診療報酬、特に病院の入
院基本料が時代遅れ。各種専門職の増加や賃金・物価
のインフレに対応出来ていないのである。そんな中、20年
前、真の病院代表として中医協（中央社会保険医療協
議会）に出た時の事を書いてみたい。

病院医療が質・量とも診療所を大きく上回ったのに中
医協2号診療側は5人全員が日本医師会（日医）推薦。
最後には名ばかり病院代表で発言は予め日医の了承が
必要と。そんな中、全国公私病院連盟竹内正也会長が
広い人脈を使い、全自病協小山田恵会長、医法協豊田
堯会長、日本病院会山本修三会長などと日本病院団体
協議会（7病協）を創り、そこから2人の委員を出すの
に成功した。石井暎禧先生と私である。私は関西弁でボ
ケ役、石井先生には理路整然のツツコミをお願いした。
人を動かすにはハートとブレイン両方を掴まねばとの考
えて2人が一致したからである。これは後に外科手術の
評価アップにも用い成功した。がん研有明病院長の山口
俊晴先生がボケ役（失礼）、病院でも家庭でも評価が
低いとばやき、東大小児外科教授の岩中督先生はツツ
コミ、〇〇手術は卒後××年の外科医△△人で□□
時間かかるので、この位の手術料にとデータを提示、功
を奏し約700億円アップした。しかし、次の会期に定年で
退いた石井委員の後任になられた嘉山孝正山形大学長
は私の発言を「邊見先生の発言は中学校の修学旅行
の感想文の様でデータに基づく議論を」と。新参者の
癖に何様だとムカついたが、2号側が内輪揉めしてい
たら1号側保険者に付け込まれると思い我慢。「先生は
Evidence Based Medicineで、私はExperience
Based Medicineを」と。公益委員の数名が微笑んだ。
その後は、ずっと嘉山先生と親交が続いている。昨年末
にもある会で交歓させて頂いた。彼は大学人の医療人な
ので、彼の任期のうちに大学病院の評価にも成功した。
筑波大学外科助教授から政界入りした足立信也先生
（現大分市長）が、長妻昭厚労相の副大臣だったのも幸

いた。

私の委員としての第一声を書き留めておこう。「私は外
科医ですが、今日ここに参ったのは医師としてではなく、
30以上の職種が働く病院代表として来ました。この会の
議事録を半年分くらい読んでみましたが、病院で大切な
臨床工学技士は1行もありません。医者はメカに弱い人
が多く（私だけかも?）、透析の人工腎臓や心臓手術の
人工心肺、呼吸器疾患の人工呼吸器、抗癌剤、強心剤
の微量注入器インフュージョンポンプなどはこの方達がエ
キスパート、この方達のお陰で他の職種は安心で本務に
専心出来ます。閑話休題、もし居なかったら今回のコロナ
パンデミックでエクモが稼働せず、もっと多くの生命が奪
われたのは語らなくてもお解りの筈かと。又、地域連携の
キーパーソンのMSW（メディカルソーシャルワーカー）
の代表でもあります」と。多くの委員が初めて聞く言葉、
職種（だと思った）への無反応。後に2号側や3号公益
委員に夜討ち朝駆け的に説明に伺い、リスクマネジメント
やチーム医療などの評価に繋げる事が出来た。

更に、当時の日本の医療は麻酔科、放射線科、病理科
の評価が低かった。診療所には殆ど居ないので、日医は
殆ど無関心。病院でもこの方達を採用すると、事務長が
「院長は儲からん科のドクターばかり雇いますね」と嫌味
を口にした。「違うよ。麻酔科の業績は外科系に、病理も
手術標本は手術した科、生検材料は内視鏡部門の内科、
喀痰細胞診は呼吸器科という具合に。放射線科は治療
以外の診断は全部各科に入っているよ。「麻放病（私の
造語）」こそDoctor's Doctor、Hospital Doctor、Risk
Managerで、この方達が居ないと医療事故多発で病院
は大損、成り立たないよ」と。今は麻酔のフリーターなども
増えて私のやった事は良かったのか、悪かったのか？

お金を出す旦那の1号健保連は、また金のかかる奴が
現れた、困ったもんだ。2号本妻自負の日本医師会は、自
分達の取り分が減るのではないかと、言葉は少し悪いが
全く「妾（2号）の子状態」。私の中の中医協での感想である。

今月の一冊

今月は2冊

今月の一冊目は『天涯の花』宮尾登美子著

(集英社文庫)である。作者は私の育った阿波の隣国「土佐のお人じやけん」。

読まないかと思っていたが「鬼龍院花子の生涯」や「天璋院篤姫」などTVや映画の画像を見てしまった。舞台は高校と大学で2回登った剣山、四国第2の高山、西日本でも宮之浦岳、石鎚山に次ぐ3番目の霊山、神仰の山である。

生後まもなく捨て子として吉野川の畔の三加茂に生後60日位の女の子が捨てられる。名は平珠子。祖谷に伝わる平家落人伝説の平家一族かも？愛光園という養護施設(この大楠がある施設には近所の兄ちゃんが勤めていた。後に園長。私も隣の中学校と軟式野球遠征試合時に横を通つて

いた)で性根が曲がる事なく少女となり、剣山中腹の神社へ養女となり山の厳しい生活に入る。

山は厳しいが、珠子は花が好きでこの山にしかないキンレンゲシユウマを特に好んでいた。この花に似たヒロインが本の題に。山の住人は測候所と山小屋、稀に登山者しかいない。これが皆好人物。ある日、遭難した高山植物写真家を訪ねて恋に落ちる。養母が亡くなり、年老いた養父を見るか、彼との恋を取るか、山小屋の幼馴染と結婚するかという悩みもある。

一代記の多い宮尾作品だが、これは20歳のヒロインで終わっている。恋愛小説、山岳小説としては少し食いたらないが、私の近所の物語、吉野川中流と名前には似合わない初級者にも親しい剣山を是非知って欲しい。

もう一冊は『ゆとりが丘クリニック便り』(駒草出版)。この本の中には、卓越した死生観を持った老人が何人も出てくる。著者は達人と名付けている。著者は若手県滝沢市で診療所を営む放射線科専門医の高橋邦尚先生。私のNPOが八幡平市で望月泉先生のお世話で令和5年10月に開催した地域交流会で1回お会いしたのだが、この本を送って下さった。

総合診療医の鑑の様な日常生活が描かれている。特に在宅での看取りは波乱万丈だが、人生模様が凝縮されて病院での看取りより人間的だと再認識した。若者にも優しい視線、自分が腕白以上だったからか。ペットにも言

葉とは裏腹に深い愛情。自分では田舎医者を名乗っているが、どんな病院でも指導者になれる医学知識とマネジメント能力を備えた方と、文章から読み取れる。

私の知るところでは、放射線科医と病理医はいつも画像を見て生活しているせい、人物描写が上手である。表情、服装、所作をよく観察、性格も的中してしまう。観察、診断の力が仕事以外の日常でも働いている様だ。文中にもある様に、患者に寄り添うなんていうのでなく、自然流というか普通に人間同志というか、久しぶりに腑に落ちる。人

や動物、田畑など自然も含めて周りを愛する地域愛。大きく言えば地球愛が著者の生き様であらう。

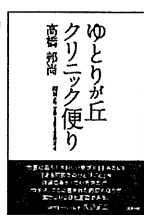
小山田先生、渡辺先生、樋口先生、佐々木先生から望月先生、宮田先生まで続く若手県立中央病院の系譜に続く流れの一端を、この本で垣間見た感じがした。本人は賞は大嫌いらしいが、赤ひげ大賞の有力候補と拝察している。若い医師や医療人には是非、待合室にも置いて欲しい一冊である。

推薦者：邊見公雄(全国公私病院連盟会長、赤穂市民病院名誉院長)



『天涯の花』

宮尾登美子／著
集英社文庫／刊



『ゆとりが丘クリニック便り』

高橋邦尚／著
駒草出版／刊

全国公私病院連盟

邊見公雄先生御侍史

このたびは私の拙書につきまして過分な御評価を頂きありがとうございました。

先生の書評の中で私の仕事に触れていただいたことは、今後の私に大きな励みになります。心より感謝申し上げます。

私は昨年病を得て、望月先生より貴重なアドバイスをいただき、なんとか日常診療をこなすところまで回復いたしました。直接、連盟主催の会合、勉強会に出席したいところではありますが、そんな日が来るよう精進して参ります。

今後ともよろしく御教示の程、御礼ともどもお願い申し上げます。

令和7年4月12日

ゆとりが丘クリニック

高橋 邦尚



ゆとりが丘クリニック